

令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

郡山市教育委員会

1 調査の概要

(1) 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証してその改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査内容

① 教科に関する調査：() 内は問題数

○ 小学校：国語(全 14 問)、算数(全 16 問)

○ 中学校：国語(全 14 問)、数学(全 15 問)、英語(公開 14 問、非公開 12 問程度、全 26 問程度)

② 質問調査

○ 児童生徒質問・・・児童生徒に対する調査(学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査)

○ 学校質問・・・学校に対する調査(指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査)

※ 中学校英語及び質問調査は CBT (ICT 端末を用いたオンラインによる回答方式) で実施

(3) 調査対象

① 小学校(義務教育学校前期課程を含む)：50 校(6 年生 2,574 名)

② 中学校(義務教育学校後期課程を含む)：27 校(3 年生 2,302 名)

2 調査結果の公表

○ 各教科における平均正答率(各教科の問題数に対する正答数の割合)、平均 IRT スコア(IRT に基づき算出される受験者の学力を表す数値の平均値)

※ IRT とは、国際的な学力調査(PISA、TIMSS など)や英語資格・検定試験(TOEIC・TOEFL など)で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし(尺度)で比較できます。

○ 各教科における結果と課題及び改善策

○ 調査の結果と改善策(本市の特徴を表す項目を抜粋)

本調査の結果は、特定の教科の一部であり、学校における教育活動の一側面を表したものではありませんが、上記調査目的をふまえ、今後も児童生徒の「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」といった資質・能力を確実に育成できるよう、保護者や市民の皆様と連携し、本市学校教育の一層の充実に努めてまいります。

3 調査結果

(1) 結果概要

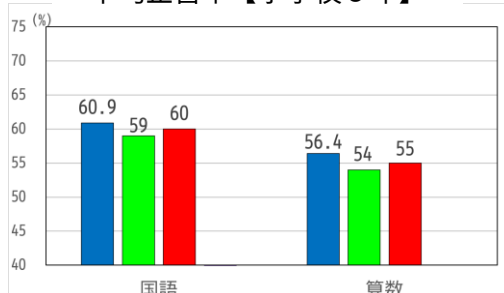
郡山市児童生徒の平均正答率(中学校英語は平均 IRT スコア)は、以下のとおりです。

○ 小学校 6 年…国語は全国平均と同程度で、算数は全国平均をやや下回っています。

○ 中学校 3 年…国語は全国平均をやや上回っており、数学は全国平均をやや下回っています。英語は全国の平均的な水準より低い状況です。

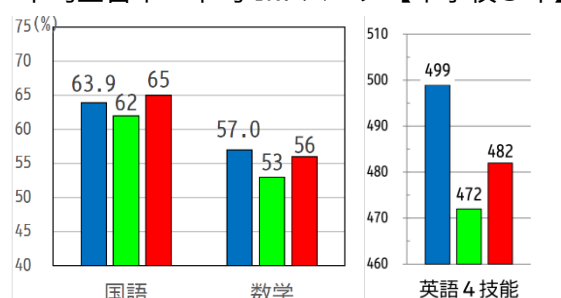
(2) 各教科における平均正答率(中学校英語は平均 IRT スコア)

平均正答率【小学校 6 年】



教科	国語	算数
全国(公立)	60.9%	56.4%
福島県	59%	54%
郡山市	60%	55%

平均正答率・平均 IRT スコア【中学校 3 年】



教科	国語	数学	英語
全国(公立)	63.9%	57.0%	499
福島県	62%	53%	472
郡山市	65%	56%	482

(3) 各教科における結果と課題及び改善策

① 本市における各教科の結果と課題、改善策

【小学校6年】

【国 語】	
結 果	
全体の平均正答率は、全国平均と同程度です。 「読むこと」の正答率は、全国平均を1.4ポイント上回っています。「話すこと・聞くこと」の正答率は3.8ポイント、「書くこと」の正答率は、1.5ポイント全国平均を下回っています。記述式の問題形式での正答率は、全国平均を2.3ポイント上回っています。	
課題①	課題②
「話すこと・聞くこと」については、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えると、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することに課題があります。 【問題番号1一】【問題番号1二(1)】	「書くこと」については、筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えると、引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題があります。 【問題番号2一】【問題番号2四】
改善策①	改善策②
話の構成を考える際には、相手にとって理解しやすい事例を挙げたり、冒頭で話の中心を述べたりすることで、自分の伝えたいことを分かりやすくするなど、話す目的や具体的な相手を明確に意識して工夫させます。 また、自分の考えが伝わるように表現を工夫する際には、言葉だけでは伝わりにくい内容について、どのような資料を用意すればよいかを考えたり、資料を提示しながらの話し方について検討したりするなど、聞き手の興味・関心や情報量などを基に考えさせます。	文章全体の構成や展開を考える際には、つながりや配列を意識して、文章全体の筋道を整え、読み手が理解しやすくなるよう工夫させます。 また、引用して書き表す際には、原文を正確に引用し、引用した部分をかぎ(「」)でくくって自分の考えとの関係を明確に区別して書くことを徹底させます。そして、常に「根拠」となる部分を明らかにし、「理由」と区別して、自分の考えを書かせるようにします。

【算 数】	
結 果	
全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っています。 すべての領域において、全国平均を下回っており、特に「変化と関係」の領域は3.0ポイント、全国平均を下回っています。	
課題①	課題②
「変化と関係」の領域では、百分率で表された割合と比較量から基準量を求めることや、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことに課題があります。 【問題番号2(2)】【問題番号2(4)】	「図形」の領域では、体積の意味についての理解に課題があります。 【問題番号1(3)】
改善策①	改善策②
問題場面から、テープ図や数直線の図などを用いて基準量、比較量、割合の関係を可視化して、数量の関係を正しく捉えて式に表すことができるようにします。 また、誤答を取り上げ、その理由を明らかにすることで理解を深められるようにします。	立方体や直方体の体積は、長さや面積などと同様に単位となる立方体(1㎤)を決めるとそのいくつ分として数値化できることについて具体物等を用いて指導します。 体積を求める際は、構成要素である辺(縦、横、高さ)に着目して式を立てて考えられるよう指導します。

【国 語】	
結 果	
全体の平均正答率は、全国平均をやや上回っています。令和 5 年度小学校 6 年時は全国平均と同程度でした。小中連携による指導の成果が着実に表れています。 「話すこと・聞くこと」の領域は 1.0 ポイント、「書くこと」は 1.3 ポイント、「読むこと」は 0.8 ポイント全国平均を上回っています。 記述式の問題形式での正答率は、全国平均を 2.2 ポイント上回っています。	
課題①	課題②
「書くこと」については、表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことに課題があります。 【問題番号 3 四】	「読むこと」については、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題があります。 【問題番号 4 四】
改善策①	改善策②
自分の文章のよい点や改善点を見いだすために、描写の仕方や表現技法などの観点を明らかにして互いに読み合うなど、友達からの助言を生かして文章を推敲する活動を充実させます。 また、優れた表現の工夫とその効果を共有し、実際にその表現を自分で活用するなど、よりよい表現の仕方を身に付けられるよう指導します。	自分の考えをより確かなものにするために、本文中の叙述や資料を基に、「根拠」や「理由」を明らかにして自分の考えを説明するようにします。 また、意見の交流などにより、多様な見方や考え方に触れて、自分の考えを見直す機会を意図的に設けるなど、他者との対話による言語活動を充実させることで、自分の考えを深められるようにします。

【数 学】	
結 果	
全体の平均正答率は、全国平均をやや下回っています。 「数と式」の領域は 0.4 ポイント、「関数」の領域は 0.6 ポイント全国平均を上回っています。「図形」の領域は 1.8 ポイント、「データの活用」の領域は 2.4 ポイント全国平均を下回っています。	
課題①	課題②
「図形」の領域では、証明の場面において、筋道を立てて証明することに課題があります。 【問題番号 8 (2)】	「データの活用」の領域では、データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することに課題があります。 【問題番号 9 (3)】
改善策①	改善策②
図形の性質を考察する場面では、成り立つと予想した事柄について、仮定と結論を明確にした上で根拠をもとに論理的に考察し、そのことを式や用語を正しく用いて数学的に表現できるようにします。 また、仮定に基づいて作図させることで、事柄が成り立つ根拠を示し、筋道を立てて証明できるよう指導します。	データを分析する場面ではデータの分布の形や位置に着目するなど、分析した結果から得られる結論が妥当であるかを検討する学習に取り組みせ、批判的に考察しながらデータの傾向を的確に捉えられるようにします。 また、判断の理由を説明する機会を多く設定し、数学的な表現を用いてよりよい説明ができるよう指導します。

【英 語】	
結 果	
公開問題における平均正答率は、19 問中 16 問が全国平均の正答率を下回っています。 特に、書くことの領域では、全ての問題で全国平均を大きく下回っています。	
課題①	課題②
「書くこと」の公開問題において全国の平均正答率が低かった問題は 10（2）（27.8%）と 14（27.8%）であり、本市においても 23.9%、22.7%と最も低い傾向にありました。要点を捉え、事実や考えを整理し、自分の考えを書くことに課題があります。 【問題番号 10（2）、難易度 5】 【問題番号 14、難易度 4】	「話すこと（やり取り・発表）」の領域で正答率が低かった問題では、与えられた情報を活用して回答していない生徒や、自分の意見に理由を添えて述べていない生徒が多く、無回答の生徒も 15%以上いました。音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話す力や、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話す力に課題があります。 【問題番号 15（2）a 及び 18】
改善策①	改善策②
日常的・社会的な話題について、「詳しく説明している」、「自分なりのコメントを述べている」、「理由を述べている」など、パフォーマンス活動におけるルーブリックを事前に示し、何が確実にできれば良いかを生徒と共有することが必要です。 その上で、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、理由等も踏まえた簡単な文や語句を用いて、よりよく相手に伝わるよう意識しながら、まとまりのある文章を書く機会を意図的に設定します。	生徒が話しやすいテーマを設定した上で、ペアやグループで即興の対話をやり取りした後、内容について振り返らせたり、アドバイスを与えたりする機会を設け、ペアを変えて再度行うなど、繰り返しやり取りする機会を設定します。 また、簡単な内容について 1～2 文で話す活動を繰り返した後、段階的に話す内容や文量を増やし、文の構成を整理させ、聞き手に伝わる一貫性のある内容を話すことができるよう、学習活動を工夫します。

(4) 質問調査の結果と改善策

① 児童生徒質問調査

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が90%以上、または全国と比べて割合が上回っているなど、よさが見られた主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
朝食を毎日食べていますか	93.9	93.3	91.7	90.9
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	91.1	90.7	93.6	92.4
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	91.6	91.4	92.5	90.9
人が困っているときは、進んで助けていますか	93.9	92.7	92.3	90.8
先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないについて、分かるまで教えてくれていると思いますか。	90.0	87.3	88.2	85.2
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか	92.4	91.4	92.3	92.4
前学年に受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか（ほぼ毎日、1日1回以上）	53.0	43.0	73.7	55.1
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	92.1	90.4	91.5	88.2
国語の勉強は好きですか	65.2	57.4	65.1	57.2
道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	89.3	86.9	93.8	91.3

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が低かった、または全国と比べて割合が下回っている、小学校と中学校で差があった場合などの課題が見られた主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
あなたの学級では、人と違う意見を言っても否定されないと思いますか	66.9	69.6	60.3	67.5
前学年で受けた授業では、算数（数学）の授業でどのように考えたのかについて説明する活動はよく行っていましたか	62.0	63.0	55.5	60.4
学校の授業時間以外に普段（月曜から金曜）、1日あたりどれくらいの時間勉強しますか（2時間以上と回答した割合）	18.7	21.6	34.5	30.1
新聞を読んでいますか	8.5	10.0	5.3	6.2

ウ 分析

【「よさ」が見られたところ】

- 起床時間等の回答から、基本的な生活習慣が身に付いている児童生徒が多い。
- いじめ等の回答から、友達との関係を良好に保とうと心がけ、友達関係に満足している児童生徒が多い。
- ICT機器の使用頻度が高く、ICTを活用した学習・生活支援が充実している。
- 周りの考えを大切にして、協力しながら課題解決に取り組んでいる児童生徒が多い。
- 国語の授業が好きという児童生徒が比較的多く、社会に出た時に役に立つと考えている児童生徒が多い。

【「課題」が見られたところ】

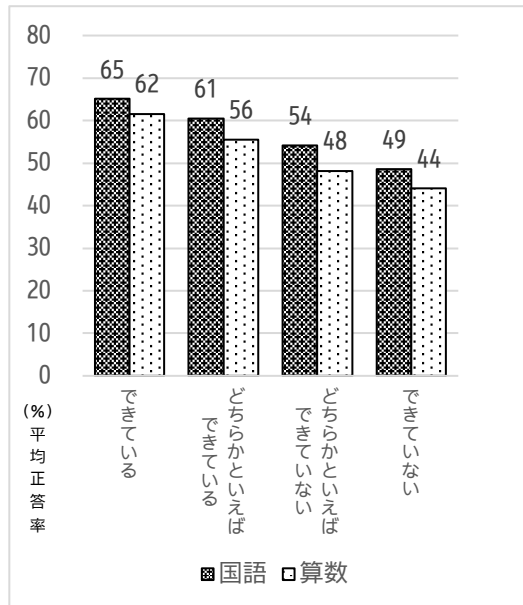
- 安心して発言できる共感的な人間関係の育成。
- 算数（数学）の授業において、考え方をアウトプットする学習活動の設定。
- 家庭学習の時間が少ない。
- 新聞を読んでいる児童生徒の減少。

② 児童生徒質問と教科に関する調査結果のクロス集計

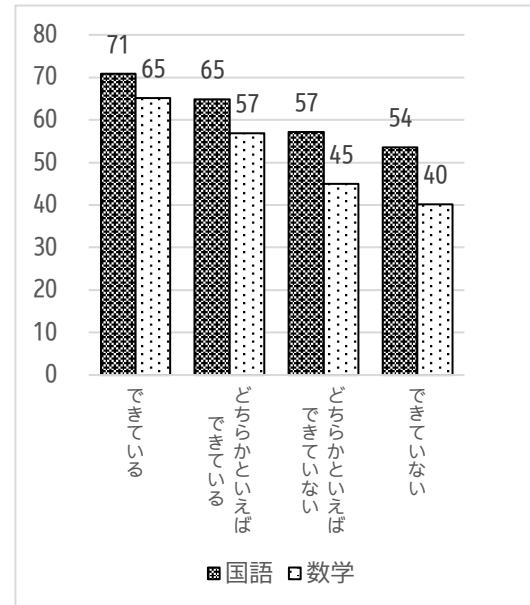
児童生徒質問の回答状況と各教科の平均正答率のクロス集計を実施した。縦軸が平均正答率を表している。

質問 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

ア 小学校

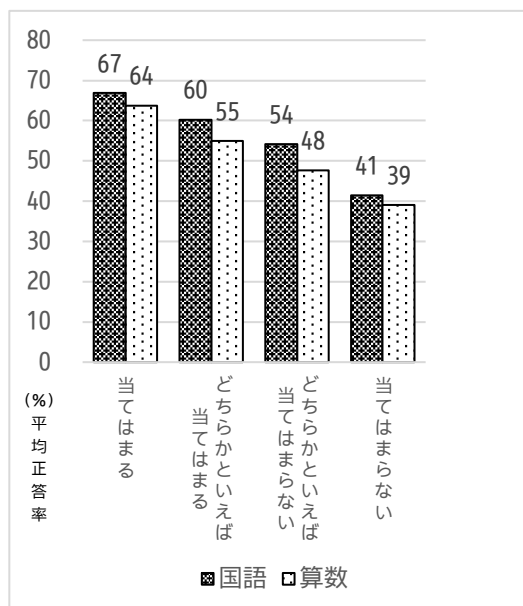


イ 中学校

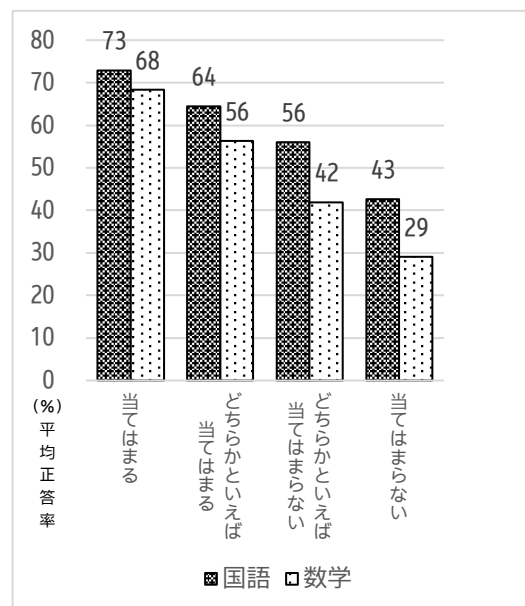


質問 前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

ア 小学校

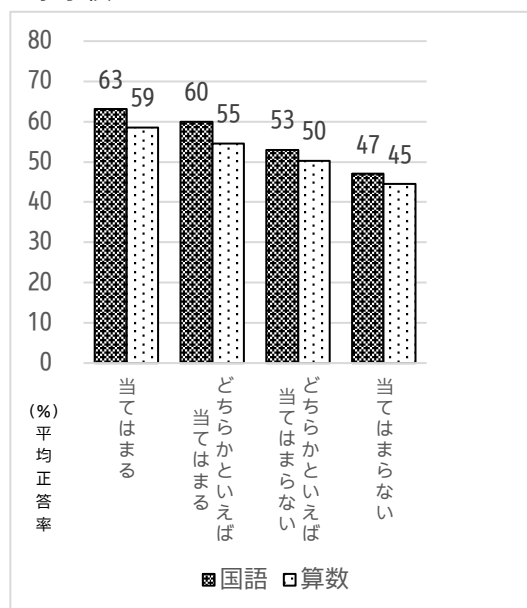


イ 中学校

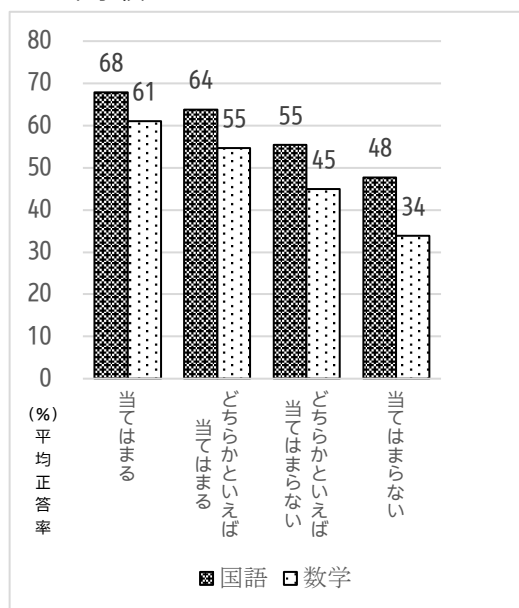


質問 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか

ア 小学校

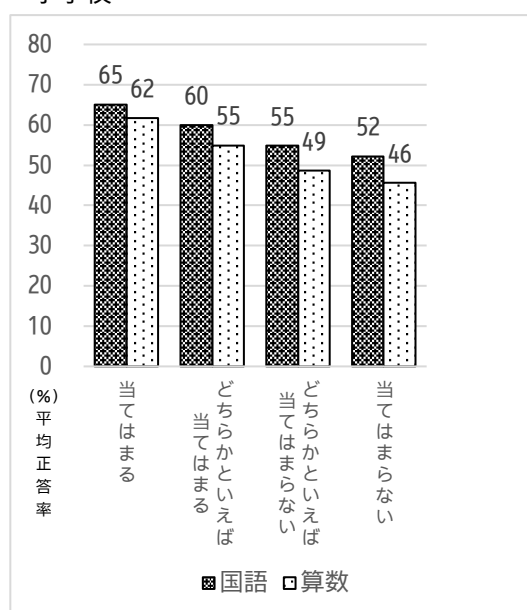


イ 中学校

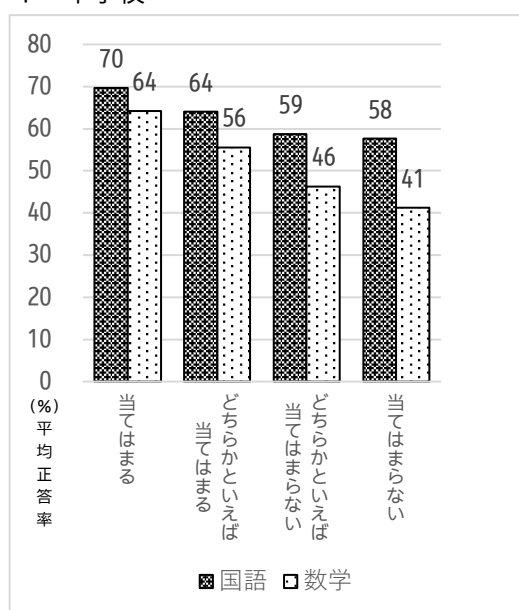


質問 学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

ア 小学校



イ 中学校



ウ 分析

課題の解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいる児童生徒ほど、また、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができている児童生徒ほど、正答率が高いことから、以下のような学習活動を推進していきます。

- 児童生徒が「問い」をもち、「考え出す」ことができる「めあて」を設定する。
- 課題を自分事として捉え、主体的に考えたり、考えを表現したりするなど、児童生徒の主体性を育むことができる授業展開を工夫する。
- 学びをメタ認知する（客観的に振り返る）時間や、補充的・発展的な学習の時間を設定する。

③ 学校質問調査

ア 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が90%を上回っている主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
前年度の児童に対して、前年度までに学校生活の中で児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒める）などの取り組みを行いましたか	100.0	98.8	96.3	98.3
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	100.0	97.8	96.3	93.7
調査対象学年の児童は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え自分から取り組むことができていると思いますか	92.0	88.1	92.6	87.2
調査対象の学年の児童は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいると思いますか	96.0	93.2	96.3	94.9
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか（ほぼ毎日）	90.0	82.8	92.6	82.3
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか	98.0	91.1	96.3	85.0

イ 「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」の合計が全国平均との差が大きい主な項目

質 問 事 項	郡山小	全国小	郡山中	全国中
前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	64.0	79.5	74.0	65.2
授業では、自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動を行っていると思いますか	56.0	64.4	62.9	56.7
自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	64.0	51.9	77.8	47.9

ウ 分析

- 学校は児童生徒に対してよい点や可能性を見付け、評価する取り組みを十分に行っている。
- 地域と一体となって特色ある学校づくりが推進されている。
- 個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実が推進されている。
- ICT 機器を活用した表現活動が全国平均より高く、学び方の変革と教え方の変革が推進されている。
- 児童生徒一人一人の実態に応じた課題設定能力の育成を通じ、個別最適かつ主体的な家庭学習が推進されている。
- 小学校では、授業で抱えている問題について話し合う機会が少なく感じており、教員同士の対話の機会確保と、専門性を生かした指導の充実の推進が求められる。

* 文部科学省が公表している資料については、国立教育政策研究所ウェブページをご覧ください。

国立教育政策研究所 『全国学力・学習状況調査』

(URL <https://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>)

令和8年度調査

- ▶ 調査質問・正答例・解説資料について
- ▶ 報告書（授業アイデア例含む）・調査結果資料について
- ▶ 授業アイデア例一覧
- ▶ 学習指導の改善・充実に向けた説明会

